

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

313

1を支援するため、欧
州的の長期的な雇用促
進を図る試験的施策で
ある。初期の数年间は
EUが資金を提供し、
至った。

検証重ね改善

「を支援するため、欧
州的の長期的な雇用促
進を図る試験的施策で
ある。初期の数年间は
EUが資金を提供し、
至った。」
「試験的施策が円滑な
展開まで一貫した支援
を行って」

EUの施策前試行参考に

欧州連合（EU）が
複数年にわたり研究開
発や人材育成など幅広
く資金提供する「研究
・イノベーション枠組
みプログラム（Fra
mework Pro
gram）」で
は、新たな施策の本格
導入前に、検討段階か
ら試験的に一部を実施
し、その結果を検証し
て生かしている。この
ようなEUの手法は、
日本でも注目されてい
る。

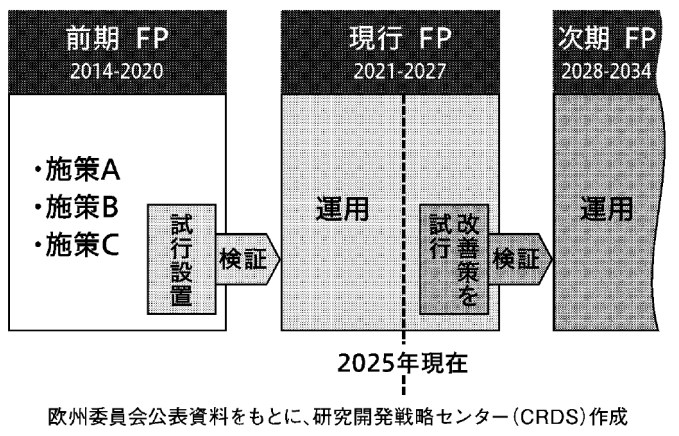
迅速な対応

例えば、現行FP



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー（STI基盤ユニット）
森 京子
一橋大学大学院法学研究科修士課程修了後、同大学院博士課程に
在籍中。民間企業でのデータ関連政策調査などを経て、25年1月か
ら現職。EUの科学技術・イノベーション政策調査を担当。修士
（経営法）。

EICの試験的施策による改善プロセス



欧州委員会公表資料をもとに、研究開発戦略センター（CRDS）作成

考にしたプログラム・
マネージャー制度が導
入された。当初は、資
金提供の条件や手続き
について、関係者の理
解が不足していたため
に、一方で、厳格な手続
遅延や、EUが資金提供
した研究成果の域内で
の活用不足など、懸念
事項も残っている。現
行FPではこれらの課
題を踏まえた改善策を
試験的に実施予定であ
り、その結果を検証し
て次期FPでの運用に
役立てる。

このようにEUで
は、柔軟性を確保しつ
つも長期的課題への対
応力を高めている。世
界情勢が急速に変化す
る中、日本で検討が進
められている第7期科
学技術・イノベーショ
ン基本計画（26―30年
度）においても、施策
を試験的に導入して継
続的に改善を図るEU
の手法は参考になり得
る。（金曜日掲載）